

内海ダム再開発問題

- ・ダム名 新内海ダム
- ・河川名 別当川(2級河川・河川長3,966^{メートル})
- ・所在地 香川県小豆郡小豆島町神懸通
- ・事業者 香川県(国交省補助ダム)
- ・総貯水量 106万トン 堰堤長447^{メートル}(川の全長の11.3%)
堰堤高42^{メートル}
- ・建設目的 治水・利水ダム
- ・事業名 内海ダム再開発事業
- ・事業費 185億円
- ・水没人家なし
- ・団体名 寒霞渓を守る連絡会 代表山西克明 香川県小豆島町神懸通1689 電話0879-82-4634

1

- ・ 現行内海ダムは、小豆島寒霞渓を源流とする全長わずか3,966^{メートル}の別当川にある。現行ダムは昭和34年に完成した総貯水量17万トンの利水治水を目的とした小さなダムである。
- ・ 香川県は平成7年の阪神淡路大震災を契機に大地震に対する安全性には疑問があるとして、改修の必要性を自ら提起した。
- ・ 平成8年から国土交通省の補助を得て改修のための調査事業に着手、平成11年に河川整備方針、12年には河川整備計画を策定したが、公表された計画は想像を絶する大規模ダムであった。
- ・ 川の全長の1割を優に超える大規模ダムは、その堰堤長が447^{メートル}、堰堤高が42^{メートル}にも及ぶが、ダム湖は、堰堤の長さよりも奥行きの方が短いという水たまり状態の極めていびつなダムである。

2

問題点1. 施工上の問題点

①断層の上のダム

- ・ 現在予定されている堰堤位置の直下には3本の断層が確認されている。水の浸透や地震によるずれなど、ダムの安定性に疑問がある。

②土石流の発生しやすい地域

- ・ 小豆島一帯の地層は、堅い岩層の下部に花崗岩層が広がり、表層が風化していることから極めて土石流や地滑りの発生しやすい地形となっている。

3

問題点2. 治水上の問題点

①過大な基本高水 香川県の規模決定要素となっている基本高水は、合理式での検算よりも30%も過大な計算となっており、基本高水そのものが架空の数字となっている。

②過大な洪水調整容量 集水面積わずか4.8平方kmに対して58万トンの洪水調整容量が計画されており、これは、既往最大雨量88ミリ/時の洪水が発生した場合、すべての水を受け止めるとしても、2時間以上持ちこたえることとなる異常な規模である。

③既往最大潮位を無視 既往最大の高潮は、平成16年の代風6号であるが、高潮偏差が発生すると、降雨が無くとも河口から800^{メートル}地点あたりまでは、氾濫する可能性を持っている。従ってダムによるピークカットよりも河口域での護岸補強が本来必要とされる事業である

4

問題点3. 利水上の問題点

①水需要の変動

- ・ ダム計画時点の想定水需要をすでに大幅に下回っており、利水の目的も失われている。

5

問題点4. 手続き上の問題点

①北区ダム直下住民との約束反故

- ・ 本ダムについては、もっとも影響を受ける直下住民の意向を尊重し全員一致まで着工しないと約束が反故にされ、反対住民がオミットされている。

②住民関与の否定

- ・ 本来のダムの必要性そのものに対する討論の場(住民参加)の場が設けられない。

6